

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果から「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」（肯定評価の割合95%） 「本校では、生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。」（肯定評価の割合94%）	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 自己の在り方・生き方を客観的に把握し、自己実現に向けて主体的に取り組む態度を育てます。 (2) 地域社会と緊密に連携したキャリア教育を進め、積極的に社会貢献できる人材を育てます。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・管理職、企画委員会を核とし、他の分掌、各学科、学年会と連携した両キャンパス一体となった組織。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 個々の生徒の進路希望を把握し、生徒が満足感・達成感を持てる丁寧な進路指導を行います。	(1)	インターンシップ等の報告書および成果物（進路ノート）に対する評価。
(2) 進路だより・進路ガイダンス・ホームルーム活動を通して、進学・就職共に必要とされる進路情報の提供に努めます。	(2)	各進路行事後のアンケートによって、生徒が、「何ができるようになったのか」という振り返りを行うことで、その達成感を評価する。
(3) 国際社会に対応した、広い視野と資質をもった人材の育成に努めます。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の特性を的確に把握し、各担任、学年団と連携し、適切な進路指導ができた。 ガイダンス・ホームルーム活動を充実させ、進路だより等を利用し、適正な進路情報の提供をすることができた。 地域や日本に関する広い視野や資質を育成を目的とした取組はできたが、グローバルな視点や能力の育成には、まだまだ課題がある。 	①各担任、学年団と協力し、生徒の個々の特性を把握できたか。 ②進路に関する諸活動が充実しているか、および適正な進路情報を提供することができたか。 ③国際社会に対応した、広い視野と資質をもった人材の育成ができたか。	㊶ B C D ㊶ B C D A ㊸ C D
11 成果・課題	○就職先、進学先のミスマッチが無いよう1年生のうちから進路先決定に向けたガイダンスや体験を計画的に実施することができた。 ○3年間の進路行事に対するポートフォリオとして「進路ノート」を活用し、事前学習や振り返りができた。 ▲外部講師によるガイダンスに関して、講話内容、対象学年・対象生徒、講話時期等の細やかな検討が必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・ポートフォリオの充実、高校生のための学びの基礎診断の活用方法の検討を重点的に行いたい。 ・大学入学共通テスト、民間英語4技能検定の情報提供および具体的な対応を授業改善、補習内容の検証と改善等による取り組みを充実させたい。 ・各種ガイダンスの講師選定、講話内容の事前打ち合わせの充実、講話方法の再検討を行いたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月25日

【意見・要望・評価等】

- ・人材を育てることは会社でも大変であり、昔はなかったことが起きている。勉強ができれば仕事ができるというものでもなく、思いやりや協調性などが社会に出て一番大事である。
- ・学習成果発表会では、地域企業が求めるものや将来的に期待できる内容のものが多かった。

